

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]  
(平成13年7月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成13年6月分(6月4日~7月1日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	-	0.05		12	麻疹	177	0.59	0.36	↘
2	咽頭結膜熱	43	0.14	0.20	↗	13	流行性耳下腺炎	377	1.26	1.24	⇒
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	349	1.16	-	⇒	14	急性出血性結膜炎	8	0.10	0.06	
4	感染性胃腸炎	955	3.18	2.96	↘	15	流行性角結膜炎	120	1.50	1.59	⇒
5	水痘	439	1.46	1.81	↘	16	急性脳炎	0	-	-	
6	手足口病	289	0.96	1.30	↑	17	細菌性髄膜炎	0	-	0.03	
7	伝染性紅斑	248	0.83	0.46	↗	18	無菌性髄膜炎	9	0.11	0.00	
8	突発性発疹	284	0.95	0.88	↘	19	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	-	
9	百日咳	9	0.03	0.04		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	17	0.06	0.35	⇒	21	成人麻疹	1	0.01	-	
11	ヘルパンギーナ	1,528	5.09	1.99	↑	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↘	⇒
↓	↘	↗	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内186の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	26	21	186

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。  
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に  
インフルエンザホームページは、「<http://influenza-mhw.sfc.wide.ad.jp/>」に掲載されています。

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	86	3.31	1.68	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	111	5.29	-	↘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.69	0.73		27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	52	2.48	-	↘
24	尖圭コンジローム	16	0.62	0.24		28	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	-	
25	淋菌感染症	27	1.04	0.81	↗	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

手足口病 急増（5月85件 6月289件）

ヘルパンギーナ 急増（5月170件 6月1,528件）

## 2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症 発生なし

二類感染症 細菌性赤痢3件発生（広島市1件 ルキソル1b, 備北地域保健所管内2件 ゴンネ 相）

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症） 10件発生

（広島市O157 2件 O26 1件, 福山市O157 3件, 東広島地域保健所管内O157 1件, 備北地域保健所管内O157 1件, 広島地域保健所管内O157 2件）

全数把握四類感染症 6件発生（アメーバ赤痢1件, 急性ウイルス性肝炎1件（A型）, 後天性免疫不全症候群1件, 梅毒2件, 破傷風1件）

## 3 ヘルパンギーナ 手足口病

今月急増したヘルパンギーナと手足口病は、主として乳幼児に流行する夏かぜの一種ですが、特にヘルパンギーナは、早くも昨年のピークである7月（1,378件）の件数を超えています。

ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）

コクサッキーAウイルスによる急性のウイルス感染症で、突発的に発熱（38～40℃）と咽頭に小さな水疱性丘疹を生じます。水疱疹は後に小さな潰瘍を形成するのが特徴です。

感染者の鼻・のどの排泄物及び糞便との接触か、又は飛沫により感染します。

手足口病

コクサッキーA16型とエンテロウイルス71型の2種類のウイルスが主な病原となり、発熱と喉の痛みで始まり発熱から2日後ぐらいから舌や口腔粘膜、手、足、臀部などに小水疱が多発します。

エンテロウイルス71型によるものは、ときに無菌性髄膜炎や脳炎などを合併し、重症化することが

あり、注意が必要です。感染様式は、ヘルパンギーナと同じです。

参考図書：感染症予防必携（（財）日本公衆衛生協会 '99）

## 4 麻疹（はしか）

件数，（ ）内定点当り件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
38 (0.13)	57 (0.19)	170 (0.45)	275 (0.92)	373 (0.99)	177 (0.59)

4月頃から流行していた麻疹も、たいがい減つてしましたか、もつしはらく注意しましよつ。なお、次の保健所管内では定点当り0.5以上と引き続き多発しています。

福山地域（2.5）、備北地域（1.94）、福山市（1.36）

## 5 一般情報

### 平成13年上半期の二類・三類感染症の発生状況

#### (二類感染症)

6月末現在で9人の方が細菌性赤痢にかかっており、そのうち6人が海外(東南アジアなど)しています。去年同期(8人)と比較して、ほぼ同じ人数となっています。

地域別では広島市5人、広島地域保健所1人、尾三地域保健所1人、備北地域保健所2人となっており、また菌型は、ゾンネI相5件、ゾンネ1件、フレキシネル1b1件、フレキシネル2a2件が分離されています。

ポリオ、コレラ、ジフテリア、腸チフス、パラチフスは発生していません。

#### (三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症)

6月末現在で34人の方がO157などの腸管出血性大腸菌感染症にかかっています。

去年同期(31人)と比較してほぼ同じ人数となっています。

幸い軽症の人が多いですが、7人が血便を呈し、9人が入院し、9才女児1名がHUS(溶血性尿毒症症候群)を発症しています。

また、今年、集団発生事例はありませんが、

**今から多発時期を迎えますので、食品の保存や調理には十分気をつけましょう!**

### 腸管出血性大腸菌感染症発生状況

#### (保健所別・血清型別)

(人数,平成13年1月)

保健所別 血清別	広島	呉	芸北	東広島	尾三	福山	備北	広島市	呉市	福山市	合計
O157	3		2	1	1		3	15		7	32
O26								1			1
O111	1										1
合計	4	0	2	1	1	0	3	16	0	7	34

#### (月別)

(人数,平成13年1月~6月)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
6	2	6	2	8	10	34

### 海外旅行での食中毒・感染症にご注意を!

#### 1 旅行前に

- ・必要に応じて予防接種を受けましょう。

#### 広島県予防接種センター

広島市南区皆実町1-6-29 (TEL:082-254-7111)

予約が必要ですので、事前に電話で申し込んでください。

- ・体調を整え、体力を保持しましょう。

#### 2 旅行中に

- ・生水、氷、カットフルーツ、なまものを避けましょう。
- ・こまめに石けんで手洗いをしましょう。

#### 3 帰国した後に

- ・下痢、発熱などの症状が出たときは、医療機関で海外旅行したことを告げて診察を受けましょう。またもよりの保健所にご相談ください。